

令和7年6月定例愛知県議会 知事提案説明要旨

このたびの定例県議会に提案をいたしました諸議案のご説明を申し上げるに先立ち、県政を取り巻く最近の状況について申し述べ、議員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

はじめに、最近の経済情勢と本県の財政運営、経済・産業の活性化についてです。

我が国の経済は、緩やかに回復していますが、米国の通商政策等による不透明感がみられます。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が緩やかな回復を支えることが期待されますが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっています。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっています。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要があります。

こうした中、本県の財政運営について申し上げます。

2024年度の一般会計の決算は、2023年度に引き続き、実質収支を確保できる見込みとなりましたが、本年度の当初予算では、医療・介護・子育てなどの扶助費が大きく増加することなどから、多額の基金取崩しを計上して、収支不足に対応したところであります。

こうした厳しい状況の中、今後の財政運営を考えますと、まずは本年度内の財源確保に取り組み、基金残高の回復に努めるとともに、「あいち行革プラン2025」に沿って、不断の行財政改革に取り組んでまいります。

加えて、経済・産業の活性化を進めることにより、地域の雇用を維持・拡大し、税収の確保につなげることも重要です。

本年4月1日に名称を改めました「産業競争力強化減税基金」による補助制度においては、2012年度の創設以来、これまでに企業立地・再投資の分野で、525件の補助対象案件を採択し、総投資額約9,495億円、約7万7千人の雇用維持・創出効果が見込まれるという、大きな成果を上げてまいりました。

また、研究開発や実証実験の支援に関する補助についても、6月10日に本年度の採択案件として65件、約7億6千万円を決定するとともに、これまでの開発成果の事業化や販路拡大を促進するため、6月4日から6日まで、愛知県国際展示場「A i c h i S k y E x p o」で開催された「A X I A E X P O 2025」内において、「新あいち創造研究開発展2025」を実施し、70企業・団体の出展を支援しました。

今後も、県内外からの企業誘引、産業の高度化や新しい産業の創出・育成により産業競争力の更なる強化を図っていくことで、世界の一步先を行く「産業首都あいち」、さらには「国際イノベーション都市」の実現を目指してまいります。

次に、中部国際空港における国産S A F 供給開始セレモニーについてです。

5月23日、セントレアの周辺地域から排出された使用済食用油等を原料として製造された、持続可能な航空燃料S u s t a i n a b l e A v i a t i o n F u e l、いわゆる「S A F」を使用した貨物便がセントレアから飛び立ちました。これは、日本初の画期的な取組であり、当日は、その供給開始セレモニーが行われ、私も出席してまいりました。

本県では、環境に配慮した持続可能な未来を築くため、「地産地消S A F サプライチェーン構築プロジェクト」を推進し、県内企業や市町村等と連携して、地域の使用済食用油等を原料にしたS A Fの製造やエアラインへの供給を目指してきたところです。

今回の取組は、その大きな一歩であり、今後とも、地域の皆様と共に、しっかりと進めてまいります。

次に、新濃尾大橋の開通についてです。

2012年10月の橋梁本体工事の着手から13年の歳月を経て、5月24日に一般県道羽島稲沢線 新濃尾大橋が開通しました。新濃尾大橋は、濃尾大橋の交通渋滞の緩和や災害時の避難路・輸送路の拡充にも寄与する全長759メートルの新しい橋で、岐阜県との共同事業として本県が整備を進めてきました。

当日は、私も開通式典と現地セレモニーに出席し、多くの方々と開通区間の渡り初めを行いました。

今後も引き続き、愛知・岐阜両県の発展と安全・安心に繋がる道路整備にしっかりと取り組んでまいります。

次に、I Gアリーナ（愛知国際アリーナ）についてです。

いよいよ7月13日に、大相撲名古屋場所をこけら落としとして、世界トップレベルのグローバルアリーナ「I Gアリーナ」がグランドオープンします。

5月24日には、プレオープンイベントとして、ハリウッドを代表する映画音楽作曲家であるハンス・ジマー氏の初来日コンサートが開催されました。

また、5月31日及び6月1日には、「I GアリーナオープニングDAYs」を開催しました。

開業式典は、約4千人の皆様にご臨席いただく中、エンタメ界をリードする音楽プロデューサー・演出家の滝沢秀明氏によるオープニングアクトで開幕し、俳優の斎藤工さん、池田エライザさんにも参加をしていただき、女子レスリング五輪3連覇の吉田沙保里さん、プロフィギュアスケーターの村上佳菜子さん、荒川静香さん、鈴木明子さん、高橋大輔さん、村元哉中さん、「w i n k f i r s t」の島田泰我さん、この方は12歳で西尾市に住んでおられますが、TOBE所属のタレントさんでございます。大相撲の小結・若隆景関、Bリーグ・名古屋ダイヤモンドドルフィンズに加藤嵩都選手、今西優斗選手、「三代目 J S O U L B R O T H E R S」の岩田剛典さ

ん、「乃木坂46」の遠藤さくらさんなど、愛知・名古屋にゆかりの多くのアスリートやタレントの皆様に出演いただきました。I Gアリーナの誕生にふさわしい、素晴らしいオープニングアクトで、I Gアリーナの門出に華を添えていただきました。また、体感イベントでは、荒川静香さんや高橋大輔さんなどによるフィギュアスケータープレミアムトークショーを開催したほか、名古屋ダイヤモンドドルフィンズやウルフドッグス名古屋を始めとしたプロスポーツチームとの交流イベントやスタンプラリーなどを実施しました。私もオープニングアクトに出演し開会宣言をさせていただきました。さらに、2日目には飛び入りでSASUKEにもトライをいたしまして、そり立つ壁にも挑戦いたしました。もちろん、登れませんでした。怪我はありませんでした。楽しませていただきました。2日間で約2万3千人の方々にご来場いただき、大いに盛り上がりました。

グランドオープン後は、8月にNBAロサンゼルス・レイカーズの八村塁選手によるバスケットボールクリニック、全国の中高生150人に来てもらって指導をするという楽しいイベントです。9月に海外アーティスト「STING」コンサート、12月にはISUグランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会愛知・名古屋2025が開催されます。さらには、名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームゲームや、東京ガールズコレクションと連携した「あいち・なごやFASHION DAYS」など、魅力的なイベントが続々と開催されます。

I Gアリーナが多くの皆様に愛され、愛知・名古屋にさらなる賑わいをもたらす施設となるよう、世界最高水準のスポーツ・エンターテインメントを発信してまいります。

次に、防災対策の推進についてです。

本県では、本年3月、新たな地域強靱化計画を策定し、あわせて、県の具体的なアクション項目を整理した「あいち防災アクションプラン」を策定しました。今年度から2029年度までの5年間を実施期間とするこのプランに基づき、防災対策の強化に取り組んでいるところです。

5月26日には、防災関係機関が一堂に会する愛知県防災会議を開催し、避難された方々の良好な生活環境確保に向けた対応などについて盛り込んだ地域防災計画の修正案を審議・決定しました。

また、2024年度から進めている県独自の南海トラフ地震被害予測調査について、地盤データの更新、被害予測のためのデータ収集・整理、被害予測手法の検討などの進捗状況を報告しました。2026年6月頃の県防災会議における調査結果の公表を目指して、さらに検討を深めてまいります。

次に、中部国際空港の第二滑走路の整備についてです。

現在、「中部国際空港の将来構想」の第一段階として、現空港用地内において、2027年度に供用開始を予定している代替滑走路の整備が進められております。

こうした中、5月28日には、東京において、「中部国際空港第二滑走路建設促進期成同盟会決起集会」と「中部国際空港拡充議員連盟総会」の合同会議を行い、その後、国土交通省始め関係方面に対し、第二滑走路建設に向けた今後の協力・支援や、航空ネットワークの充実に向けた取組、カーボンニュートラルへの対応などについて、要請を行いました。

今後とも、国・空港会社と緊密に連携し、中部国際空港の第二滑走路の整備を始めとする機能強化、利用促進にしっかりと取り組んでまいります。

次に、リニア中央新幹線の建設促進についてです。

現在、県内では、リニア名古屋駅の新設工事のほか、約25キロメートルにわたるトンネル全線で工事が着手されるなど、リニア中央新幹線の建設が着実に進められています。

5月28日には、東京において、私が会長を務める「リニア中央新幹線建設促進期成同盟会」の総会を開催し、早期全線整備の実現に向けた決議を行い、その後、沿線自治体の5人の知事と共に、中野国土交通大臣へ要請してまいりました。また、同日、自由民主党の「超電導リニア鉄道に関する特別委員会」にも出席し、他の知事とともに、1日も早い開業への切なる思いを伝えました。

6月2日には、本県では初となる、大深度地下トンネルの本格的な工事の開始に当たり、JR東海が主催した「シールドマシン発進式」に出席しました。シールドマシンの愛称は、JR東海さんに頼まれまして、名前をつけてくれと言われましたので、愛知の愛で、「愛・シールド」と名付けさせていただきました。当日は、その愛称を県立春日井泉高校の書道部の生徒さんの書道パフォーマンスにより、ご披露いただきました。さらに、私自ら、工事の無事・安全を祈願して、シールドマシンの発進ボタンを押すなど、県内のリニア工事の節目に相応しい式典となりました。深さ約80mの立坑を横に、直径約15mのシールドマシンが掘削をしていくということです。

引き続き、日本を大きく成長させる原動力となる、この国家的プロジェクトの早期実現に向けて、国を始めとする関係者と緊密に連携しながら、しっかりと取り組んでまいります。

次に、米国による関税措置への対応についてです。

4月21日に、私を本部長とする「愛知県米国関税対策本部」を立ち上げ、中小・中堅企業向けの相談窓口対応や、経営課題解決に向けた専門家派遣の無料化などを、緊急対策パッケージの第1弾として取りまとめました。また、6月3日には、「愛知県米国関税対策本部」の第2回会議を開催し、「緊急対策パッケージ第2弾」として、県融資制度に「米国関税措置・物価高対応枠」を設け資金繰り支援を拡充するとともに、自動車サプライヤーの新規事業開発の伴走支援や国内大規模展示会への出展支援、相互関税の影響を受ける幅広い産業分野を対象とした海外展示会への出展支援をとりまとめました。

さらに、6月9日に本県で開催した「第122回中部圏知事会議」では、私から米国関税措置

に関する共同提言を発議した上で、国への提言を取りまとめるとともに、6月16日には在日米国大使館のジョージ・グラス大使に対して、直接、日本企業が対米投資や雇用創出により米国経済に世界で最も貢献していることを強くアピールしてまいりました。アメリカへの投資は日本企業が累計投資額で1番、そして雇用の創出は100万人で2番ということでございます。そのことを強くアピールさせていただきました。

引き続き、政府間の交渉内容を注視しながら、県内事業者への影響や支援ニーズを正確に把握し、必要な対策を迅速に講じてまいります。

次に、「AXIA EXPO 2025」の開催についてです。

6月4日から6日までの3日間、昨年に引き続き、「Aichi Sky Expo」において産業展示会「AXIA EXPO 2025」を開催しました。

今年は、「愛知発、カーボンニュートラル社会の実現へ」というテーマのもと、「水素・アンモニア次世代エネルギー」、「次世代型スマートシティ」、「GXイノベーション」、「スマートファクトリー」の各分野で先端的な取組を行う企業の技術や製品の展示等が行われました。

さらに、新たな企画として、本県の中小企業やスタートアップなどが出展する「愛知県パビリオン」を設置し、生産管理や製造現場の先進化・効率化をテーマとした技術やサービスを展示しました。

加えて、「アジアパビリオン」も初めて設置いたしまして、中国、韓国、ベトナム、インドのアジア4か国の先端的な技術・製品を有する企業に出展いただき、国内外企業との交流やマッチングの機会を創出しました。

また、冒頭にも申し上げましたが、本県の補助金を活用した研究開発や実証実験の成果を展示する「新あいち創造研究開発展2025」も同時に開催し、企業による商談や交流が活発に行われました。

今後も、こうした産業展示会を誘致・開催していくことで、当地域の産業振興や地域経済の発展につなげてまいります。

次に、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の推進についてです。

6月4日に、私が会長を務める愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会の理事会を開催し、アジア競技大会で実施するクリケットの競技会場を愛知県口論義運動公園に仮決定することなどについて、議決いただきました。

また、6月5日にはアジアパラ競技大会500日前イベントを名古屋市内で開催し、アジアパラ競技大会のカウントダウンボードをお披露目するとともに、杭州アジアパラ競技大会にも出場されたパラサイクリングの川本翔大選手のトークイベントを実施しました。

加えて、翌6日には、アジア・アジアパラ競技大会推進議員連盟総会が開催され、組織委員会

会長として出席しました。総会では、超党派の議員連盟の皆様へ、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会への財政支援を「経済財政運営と改革の基本方針2025」（骨太の方針）に明記するためのお力添えをお願いしてまいりました。その結果、6月13日に閣議決定された骨太の方針の本文に「アジア・アジアパラ競技大会の意義等を踏まえた各般の開催支援」が明記されました。アジア・アジアパラ競技大会推進愛知県議会議員連盟での取組を始め、超党派での皆様のお力添えに感謝申し上げます。今後、具体の財源確保につきましても関係方面と十分協議し要請してまいりますので、県議会の皆様にも引き続き力強いご支援をお願い申し上げます。

両大会の開催まで500日を切りました。5月に開催されたアジア・オリンピック評議会（OCA）及びアジアパラリンピック委員会（APC）の調整委員会いただいた助言も踏まえ、準備を加速させ、組織委員会を始め、国、名古屋市、関係団体などと連携し、オールジャパンで取り組み、愛知・名古屋2026大会を成功へ導いてまいります。

次に、小田凱人選手の全仏オープンテニス2025制覇についてです。

6月8日に、フランス・パリのスタッド・ローラン・ギャロスで、全仏オープンテニスの車いす部門の男子シングルス決勝戦が行われ、一宮市出身の小田凱人選手が、3連覇そして5度目の四大大会制覇の快挙を遂げられました。

県民の皆様とともに、心からお祝いを申し上げます。

本県ゆかりの選手が活躍されることは、県民に大きな夢と希望をいただくとともに、大変重い病気を克服された小田選手の活躍は、障害に対する理解を深めることにもつながります。

今後もこうした世界の大舞台で活躍いただくこと、とりわけ、来年10月に行われる愛知・名古屋アジアパラ競技大会での金メダルの獲得を大いに期待しています。

次に、中部圏知事会議についてです。

6月9日に、「第122回中部圏知事会議」を本県で開催し、中部9県1市の知事、市長が参加しました。

会議に先立ち、STATION A iを視察し、愛知のスタートアップ・エコシステムを肌で感じていただきました。

会議では、私が座長を務め、先に述べました米国関税措置を始め、社会インフラの整備、地方創生の推進、防災対策、少子化対策などの諸課題について協議し、国への提言17項目を取りまとめました。

国への提言の協議では、まず私から、米国による関税措置における国の対応について、引き続き、米国との粘り強い交渉を求めるとともに、中小・中堅企業や農業関係者など影響を受ける事業者への支援等の展開、地方経済が持続的に発展していくための対策が必要であることなどを申し上げます。

また、「リニア中央新幹線の東京・名古屋間開業効果の最大化と1日も早い全線開業の実現」や「第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の開催に対する支援」、「水素・アンモニアの需要と供給の拡大」について提案し、採択されました。

今後とも、中部圏知事会の会長として、各県の知事や市長と力を合わせ、中部圏の更なる飛躍に向けて全力を尽くしてまいります。

次に、安全・安心なまちづくりの推進についてです。

本県の刑法犯認知件数は、ピーク時の約2割の水準まで減少しましたが、直近では3年連続で増加しており、厳しい犯罪情勢となっております。

こうした状況を踏まえ、6月10日には、県、県警察、行政機関、事業者団体及び地域団体で構成する「愛知県安全なまちづくり推進協議会」を開催し、「あいち地域安全戦略2026」に基づく、2025年度版の「あいち地域安全県民行動計画」を策定しました。

本県としましては、この計画に基づいて関係機関と連携し、特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺、侵入盗、自動車盗などへの対策を講じるとともに、犯罪被害者等への支援が途切れることなく提供できるよう、多機関ワンストップサービス体制の確立に取り組んでまいります。

今後も、刑法犯認知件数を再び減少に転じさせることができるよう地域全体で安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

次に、「あいちデジタルヘルスプロジェクト」についてです。

本県では、2040年に県民の約3人に1人が65歳以上の高齢者となる超高齢社会の進展を見据え、デジタル技術を活用し、健康寿命の延伸と生活の質（QOL）の維持・向上に貢献する各種サービス・ソリューションを創出する取組を進めております。

6月11日には、プロジェクトの推進母体であり、私が会長を務める「あいちデジタルヘルスコンソーシアム」の定時総会を開催し、新たに創出するサービスの社会実装に向けた実証事業の取組状況を始め、スマートフォンのアプリを通じて各種サービスを県民に提供するポータルサイトや、様々なサービスをつないでデータを利活用するデータ連携基盤の整備に着手したことなどをご報告させていただきました。

国立長寿医療研究センターを始めとするアカデミアの助言や市町村の協力もいただきながら、引き続き、このプロジェクトを一層強力に進めてまいります。

次に、公益社団法人全国公立文化施設協会研究大会における野村萬斎会長との対談についてです。

6月12日と13日の2日間、愛知芸術文化センターにおいて、全国の公立文化施設の関係者が集まり、当面する諸課題について研究討議する「令和7年度公益社団法人全国公立文化施設協

会研究大会 愛知大会」が開催されました。

私から、開会式にてご挨拶を申し上げるとともに、協会の会長で公立劇場の現場でディレクターも務める、狂言師の野村萬斎さんと対談しました。

野村萬斎さんは、古典の知恵や発想を現代に生かそうとさまざまな試みに挑まれており、演出を手掛けた作品は、往年のファンだけでなく、若い世代の観客にも好評で、野村萬斎さんの公演で初めて能楽堂に足を運ばれた方も多いと言われております。

伝統文化の担い手不足が言われる中、次世代への継承のためには、まずは若い世代が伝統文化に触れることが大切であり、その点でも、野村萬斎さんの功績は大きいものと考えております。

本県におきましても、地域の伝統文化を学び、鑑賞や体験ができる機会を提供するなど、担い手の確保に向けた取組を積極的に推進してまいります。

次に、愛知県スポーツ顕彰についてです。

6月16日に、県ゆかりの選手の皆様の輝かしい功績をたたえ、愛知県スポーツ顕彰授与式を開催しました。

第108回日本陸上競技選手権大会・男子20キロメートル競歩で優勝し、世界新記録を樹立した山西利和選手、2025 F I S フリースタイル&スノーボード世界選手権大会のスキーフリースタイル・男子モーグル優勝と男子デュアルモーグル2位の堀島行真選手、スノーボード・男子ビッグエア優勝の木俣椋真選手、2位の長谷川帝勝選手、スノーボード・女子ビッグエア3位の深田茉莉選手、I S U 世界フィギュアスケート選手権大会2025のペア優勝の木原龍一選手、男子シングル3位と第9回アジア冬季競技大会・フィギュアスケート・男子シングル2位の鍵山優真選手、2025 F I S パラスノーボード世界選手権大会の男子スノーボードクロス3位の小栗大地選手、第9回アジア冬季競技大会のスノーボード・女子ハーフパイプ2位の冨田せな選手に対し、愛知県スポーツ顕彰を授与しました。9選手の活躍を愛知県民として誇りに思います。

今後も、本県ゆかりのアスリートが、来年2月にイタリアのミラノやコルティナ・ダンペッツォで開催される第25回オリンピック冬季競技大会や、同じく3月に開催されるミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会、9月から10月にかけて、ここ愛知・名古屋で開催する第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会などの国際大会で、大いに活躍されるよう、しっかりと支援してまいります。

次に、交通安全対策の推進についてです。

本県の交通事故情勢は、今年に入ってから、交通死亡事故が前年比で減少しているものの、依然として悲惨な交通事故が後を絶ちません。

こうした状況を踏まえ、6月6日に、県、県警察、国及び関係団体の代表者による「愛知県交通安全対策会議」を開催し、本年度の交通安全対策における具体的な施策を盛り込んだ「202

5年度愛知県交通安全実施計画」を策定しました。

交通事故の減少に向け、来月11日から始まる「夏の交通安全県民運動」においては、「歩行者の安全確保と交通ルールの遵守」、「運転者の安全運転意識の向上及び飲酒運転等の根絶」、「自転車・特定小型原動機付自転車利用時の交通ルールの遵守とヘルメット着用の徹底」の3つを運動重点に掲げ、県警察や市町村、関係諸団体と連携した交通安全運動を展開してまいります。

今後とも、県民総ぐるみの交通安全対策をより一層推進し、交通事故及び交通事故死者数の減少に全力で取り組んでまいります。

それでは、今回提案をいたしております補正予算案及びその他の議案につきまして、その概要を申し上げます。

まず、補正予算についてです。

補正予算につきましては、一般会計で86億9千4百万余円を増額補正するものです。

補正予算の主な内容ですが、まず、6月3日にとりまとめた米国関税に関する本県の「緊急対策パッケージの第2弾」として、県制度融資の「経済環境適応資金・サポート資金（経済対策特別）」に「米国関税措置・物価高対応枠」を新たに設け、融資対象者の要件を緩和するとともに、信用保証料の2分の1を補助し、中小・小規模事業者の事業継続を支援してまいります。

また、県内中小・中堅自動車サプライヤーを支援するため、新規事業開発に向けたセミナーの開催や計画策定から実行までの伴走支援、販路開拓に向けた国内大規模展示会への出展費用を補助してまいります。

さらに、米国に代わる海外販路開拓を模索している県内中小・中堅企業向けに、海外展示会等への出展費用を補助してまいります。

次に、高等学校等の授業料無償化に伴う対応についてです。年収約910万円以上世帯の生徒に対して、高等学校等の授業料に係る保護者の経済的負担を軽減するため、生徒一人当たり年額11万8,800円を上限に支給します。

また、低所得世帯の高校生等に対する授業料以外の教育費負担を軽減する奨学給付金については、国公立の全日制等の第1子と第2子以降の給付額を同額とするため給付額を増額します。

次に、人材不足が喫緊の課題である訪問介護事業所等に対して、人材確保体制の構築や経営改善に向けた取組を支援します。

また、新興感染症発生時における医療提供体制の確保を図るため、医療措置協定を締結した医療機関が行う、施設・設備の整備を支援します。

さらに、電子処方箋の普及拡大、利活用による質の高い医療サービスの提供、重複投薬等の抑制、医療機関の業務効率化を推進するため、電子処方箋の導入を引き続き支援します。

加えて、近年のギャンブル等依存症に関する相談件数の増加や、社会問題化するオンラインカジノの影響を踏まえ、早期に診療体制の充実・強化を図るため、多様な依存症に対応できる医師

を養成する寄附講座を藤田医科大学に新たに設置します。

このほか、２０２７年５月２日から５日にかけて開催される「第６０回アジア開発銀行年次総会」の成功に向け、名古屋市・経済界等と連携して支援します。

また、あいち次世代バッテリーコンソーシアムの取組として、トヨタ自動車と共同で電池の研究開発を目的としたビームラインを「あいちシンクロトロン光センター」に整備します。

さらに、９月１６日から１８日の３日間、「A i c h i S k y E x p o」で開催される、空港の新たな利活用の可能性を検討する機会となる「アドバンスド エアモビリティ アジアシンポジウム」の開催を支援します。

次に、補正予算案以外の議案についてです。

今回提案をいたしております案件は、条例関係議案が７件、その他の議案が１８件です。

主な案件につきまして、ご説明申し上げます。

まず、ソーシャルイノベーション創出基金条例の制定についてです。

これは、社会課題の解決及び地域の活性化に資するソーシャルイノベーションの創出促進に必要な財源を確保するため、新たに基金を設置するものです。

次に、愛知県カスタマーハラスメント防止条例の制定についてです。

これは、カスタマーハラスメントの防止について、基本理念を定め、県、事業者、就業者及び顧客等の責務を明らかにするとともに、施策の基本となる事項を定めるものなどです。

次に、工事請負契約の締結については、名古屋東部地区新設特別支援学校（仮称）校舎建築工事に係るものなどです。

最後に、人事案件でございますが、公安委員会及び人事委員会の委員の任期満了に伴いまして、その後任者を選任するものです。

以上、提案をいたしております案件の主なものにつきまして、その概要をご説明申し上げますが、詳細につきましては、議事の進行に伴いましてご説明を申し上げたいと存じます。

どうかよろしくご審議の上、適切なご議決を賜りますよう、お願いを申し上げます。